

## 政策 2-(2)-①

### 1. 政策及び16年度重点施策等

政策	専門性の高い調査研究の実施
16年度重点施策	① 金融環境の変化に応じた調査研究の実施 ② 庁内へのフィードバックの充実
参考指標	① 研究成果の公表状況（公表論文等の本数・分野） ② 庁内へのフィードバック状況（研究会、ワークショップ、勉強会の開催数）

### 2. 政策の目標等

分野	情報
課題	金融行政の専門性向上ための情報収集・分析

### 3. 政策の内容

金融をとりまく環境は情報通信技術の発展等により、更に高度化、複雑化、国際化等が進展してきています。

このような金融情勢の変化に的確に対応し、立ち遅れることなく適切な行政運営を確保していくため、専門性の高い調査研究を行うとともに、庁内へのフィードバックの充実を行うこととしました。

### 4. 平成16事務年度における事務運営についての評価

#### (1) 金融環境の変化に応じた調査研究の実施状況

平成16事務年度は、研究成果として、合計7本の研究論文を取りまとめました。これらの論文は、電子金融取引、金融コングロマリット、信用リスク管理におけるデフォルト相関係数の推定法、米独の金融制度・セーフティネットと多岐にわたっており、本数・分野の多様性ともに充実しています。7本のうち、6本については、初の論文集（年報）となる「FSA リサーチ・レビュー」としてとりまとめ、他の1本については、ディスカッション・ペーパーとして、それぞれ金融庁ホームページに全文公開するとともに、印刷物を研究機関、主要大学図書館、民間シンクタンク等約500箇所に配布しました。

これにより、金融環境に応じた、学術的にも行政上も意義のある有益な研究を実施できたと考えられ、対外的にも幅広く周知し議論を喚起することができたと考えています。

## (2) 研究成果の庁内へのフィードバックの状況

### ① 研究会・ワークショップの開催

研究官の研究活動の一環として開催した「債権の電子化と金融ビジネスの新たな方向に関する研究会」、「諸外国金融制度ワークショップ」、「企業会計と税制等の将来像に関する研究会」は、合計 13 回に上りました。これらについては、庁内職員が参加できるため、学界・実務界の最新情報に接し議論に参加できる身近な機会として有益であったと考えています。

### ② 昼休み勉強会の開催

昼休み勉強会については、合計 18 回開催し、外部講師から最先端の理論や実務経験を踏まえた講話を聞き議論することを通じて、庁内職員の視野を広げ幅広い分野の知識を身近な場所で得られる格好の機会となっていると考えています。

### ③ 国際会議への参加

バーゼル銀行監督委員会には、研究官が、高度な専門能力を活かし、当庁を代表して参加しており、国際会議における当庁の存在感を高めることに貢献したと考えています。また、このような研究成果は庁内に還元されています。

### ④ 庁内各局からの随時の要請に応じた調査・報告等も行い、専門的知識・技術の提供を行いました。これらは行政実務に直接役立てられました。

以上から、研究成果の関係部局へのフィードバックの面では、十分な成果があったと考えています。ワークショップ・研究会や各種勉強会では、職員の専門性・先見性向上の機会が提供され、また関係部局との相互交流も促進されたと考えています。

## 5. 今後の課題

職員の専門性・先見性向上を図っていくためには、研究成果の庁内へのフィードバック・関係部局との相互交流は引き続き重要であり、より一層充実していくことが必要であると考えています。

また、今後、いままで以上に研究の質を高め、研究内容も金融環境に対応したものを実施していくためには、民間との情報交流をより充実させていくことが重要です。

以上を踏まえ、平成 18 年度において、金融研究会関係経費、研究論文執筆関係経費等の予算要求を行う必要があります。加えて、引き続き、学識経験者（大学教授）であるセンター長の指導のもと、研究活動の更なる向上、国内外の学識者との交流の進展を図っていく必要があります。

## **6. 当該政策に係る端的な結論**

政策の達成に向けて成果が上がっていますが、環境の変化や取組みの有効性等を踏まえ、取組みの充実・改善や新たな施策の検討等を行う必要があります。